

International Minamata Symposium
on Mercury Treaty

水俣から

水銀条約を問う

国際シンポジウム

2013年 10月5日 - 6日

水俣市公民館 2F ホール

参加資料代 1000円

第1日 水俣から水銀条約を問う

10月5日 13:30 ~ 17:30 英語同時通訳付き

被害者からの証言／水俣病事件の現状と課題／水俣・不知火海的环境を考える／水銀条約と水俣病事件

第2日 世界の水銀汚染と水俣条約

10月6日 10:00 ~ 16:00 英日逐次通訳付き

基調講演 子どもたちの危機：水銀汚染の問題

フィリップ・グランジャン博士（南デンマーク大学環境医学教授）

世界からの報告 タイ／カメルーン／インドネシア／クック諸島

主催：水俣から水銀条約を問う会

協力：国際 POPs 廃絶ネットワーク（IPEN）／化学物質問題市民研究会（CACP）

問い合わせ：水俣ほたるの家 熊本県水俣市南福寺 108 TEL/FAX：0966-63-8779

「水俣から水銀条約を問う会」では、2013年10月の水銀条約締結の外交会議に際し、被害者や市民が水銀規制の問題に関心をもち、世界における水銀規制が有効におこなわれ、水銀汚染の防止が速やかに推進されるよう取り組みをおこなってきました。

1972年スウェーデン・ストックホルムでの国連環境計画（UNEP）の会議に、坂本しのぶら水俣病被害者3人が参加し、「水俣の悲劇を繰り返すな」とアピールを発してから、41年が経過します。しかし、世界では化学工場での水銀使用、小規模金鉱山での精錬工程、石炭火力発電所などからの大気への排出など、さまざまな汚染がいまも継続し、地球規模の水銀汚染は拡大しつづけています。

水銀条約は、これまで5回にわたる政府間交渉会議を踏まえ、10月に熊本・水俣でその締結会合が開かれることになっていますが、条約案は水銀排出国や関連産業の現実に配慮した内容で、自主的なものや奨励されるといった条項が多く、禁止・規制効果は薄いものになっています。今後の被害拡大を防止できるかについては、大きな疑問を投げかけざるを得ない状況ですが、この水銀条約締結を機会に、水俣病被害の事実を広く世界に訴え、水銀被害の防止に新たな一歩を踏み出さなくてはなりません。

そこでわたしたちは10月5－6日には、世界の水銀汚染問題に取り組む研究者やNGOを招聘し、国際シンポジウムを企画しています。第1日は水俣病被害の現状と課題を被害者らが報告するとともに、水俣病の教訓を踏まえた水銀条約の課題を考えます。また、第2日は世界各地からのゲストを迎え、「世界の水銀汚染と水銀条約」について報告を受け、より強い水銀条約へのアピールをおこなう予定です。ぜひ、多くの皆様に参加いただき、水俣と世界の水銀汚染の現状と課題を考え、有効な水銀規制をはじめの第一歩としていきたいと思えます。

水俣から水銀条約を問う会
代表 坂本しのぶ

<第1日 10月5日（土） 13:30～17:30>

◆被害者からの証言

水俣病は終わらない！ 坂本しのぶ（水俣病互助会、水俣から水銀条約を問う会代表）
拡がり続ける水俣病被害、被害の全容解明を 大石利生（水俣病不知火患者会会長）
水俣病第2世代訴訟、胎児期暴露世代が訴えてきたこと 佐藤英樹（水俣病被害者互助会代表）
公害被害補償法に基づく認定を求めて闘う 坂本龍虹（水俣病被害市民の会）

◆水俣病事件の現状と課題

水俣病の歴史と現状 花田昌宣（熊本学園大学・水俣学センター所長）
水俣病医学の過去・現在・未来 頼藤貴志（岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授）

◆水俣・不知火海的环境を考える

汚染サイト（水俣湾・八幡プールほか）その現状と今後の課題 山下善寛（水俣の暮らしを守る・みんなの会）

◆水銀条約と水俣病事件

水銀条約は水銀汚染を止められるのか？ 安間 武（化学物質問題市民研究会）
水俣病事件の教訓と水銀条約 谷 洋一（NPO法人水俣病協働センター）

◆福島原発被害の現場からアピール

<第2日 10月6日（日） 10:00～16:00>

◆基調講演 子どもたちの危機：水銀汚染の問題

フィリップ・グランジャン博士（南デンマーク大学環境医学教授、デンマーク）

◆IPEN 水俣を敬うキャンペーン：世界の連帯 マニー・カロンプ（国際POPs廃絶ネットワーク（IPEN）共同議長、フィリピン）

◆世界の水銀汚染ホットスポットと影響を受けた地域共同体

ジンドリッヒ・ベトロリク博士（IPEN 重金属作業部会共同議長 ARNIKA, チェコ共和国）

◆石炭火力発電所 ペンチョム タン（Ecological Alert and Recovery - Thailand EARTH, タイ）

◆水銀中毒防止のための世界の取り組み：カメルーンの産業汚染

ギルバート・クエボウオ博士（開発のための研究教育センター（CREPD）、カメルーン）

◆人力小規模金採掘（ASGM）：水銀汚染と暮らし

ユーユン・イスマワティ（IPEN ASGM 専門家、バリフォクス（BALIFOKUS）、インドネシア）

◆魚を食べる人々の毛髪中の水銀：日本とクック諸島の比較

イモゲン・プア・イングラム（島嶼持続可能性連合（ISACI）、クック諸島）

◆水銀条約と汚染サイト ジョー・ディガンギ博士（IPEN 上席科学技術顧問、アメリカ）